

鶏肉情勢

令和5年1月12日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
供給	<p>1. 国内</p> <p>(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和4年11月末実施)によると、11月の推計実績は処理羽数61,593千羽(前年比97.8%)、処理重量189.4千ト(同98.2%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は2.0%下方修正され、処理重量は前月時点の計画値を0.1%下方修正された。気温が下がったことで大腸菌症が発生した農場もあったとのこと。生産状況は概ね順調であり、処理羽数に比べて処理重量の前年同月比が高いことから増体も良かったことが伺える。</p> <p>(2) 12月の処理羽数はほぼ前年並み、処理重量はわずかに下回る見通しとなっている。地区別で見ると処理羽数は北海道・東北地区のみ前年を下回る見通しであり、処理重量は中部地区以外は前年を下回る見通しである。今期は鳥インフルエンザの感染が爆発的に広がっており、肉用鶏農場での発生もすでに昨季を上回る10例、殺処分数も約90万羽となった(1月11日時点)。今後も発生が続く恐れがあり生産への影響が懸念される。また、工場の人員不足は引き続き厳しい状況が続いており、加工品(切り身・手羽中ニツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整は続くと思われる。</p>
	<p>2. 輸入</p> <p>(1) 財務省12月27日公表の貿易統計によると令和4年11月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲4.1千トの49.8千トで、国別ではブラジルが▲4.4千ト、タイで+0.3千トとなっている。前年同月の実績に対しては▲8.0千トとなった。タイの輸入量が回復したものの、ブラジル産は減少となり、米国産は鳥インフルエンザの影響もあり減少となった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、12月が51.6千ト(前年比85.0%)、1月が44.5千ト(前年比82.7%)となっている。12月は前月に比べ増加が予想される。ブラジル産は現地オファーに下げ止まり感があり今後価格の上昇が予想されるが、為替の影響により変化してくることが考えられる。タイ産は製造の回復により今後も増産が予想される。国内市場はブラジル産が在庫消化等で下げ基調の価格であったが、国産モモ肉の不足に対する代替需要等により今後上昇が予想される。タイ産においては増量の影響により国内産むね肉価格への影響が予想される。今後の動向に注視したい。</p> <p>(2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から▲1.0千トの43.1千トで、国別では中国が+0.5千ト、タイが▲1.5千トとなった。前年同月の実績に対しては▲0.7千トとなり、前年比・前年比ともに下回る結果となった。タイの生産は回復したが11月実績は減少となった。1月～11月累計では前年比112.1%となっている。価格については為替の影響で、現状は前年より上昇している。外食については回復傾向だが、夜間帯や法人での利用は減っている状況である。中食・総菜向け等の引き合いは継続している状況である。今後の動向に注視したい。</p> <p>(3) 財務省が12月27日に公表した貿易統計によると11月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より73.9%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より112.9%上昇した。生産コストの増加や為替相場の影響により高値が継続している。国別ではブラジル産の価格が422円/kg(前月比2円安)、タイ産が485円/kg(同13円安)となっている(国別平均価格)。ブラジル産はコスト高や為替相場の影響により、高値で推移しているなか市場価格は下がってきていたが、国内での鳥インフルエンザの影響などにより一部国産からの代替需要があり価格が上昇傾向になるとの話が聞こえている。タイ産については製造量が増加し、市場価格も下げ基調となってきた。今後の国産鶏肉への影響に注視したい。</p>
需要	<p>1. 家計消費</p> <p>(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和4年11月の生鮮肉消費(購入)は数量4,086g(前年比97.7%)、金額6,504円(同103.8%)と、数量は前年を下回り、金額は前年を上回った。鶏肉は数量1,495g(同97.3%)・金額1,505円(同105.3%)・単価100.7円/100g(前年同月+7.7円)と、数量は前年を下回り、金額・単価は前年を上回る結果となった。調理食品が金額12,011円(同104.4%)、外食が13,259円(同106.9%)となっている。長期化する生活全般に及ぶ物価上昇の中、節約志向が働き、加えて相場高騰による店頭売価の値上げもあり、購入数量が抑えられたと考えられる。外食においては、新型コロナ第8波の中ではあるが、行動制限もなく、全国旅行支援や飲食店支援策も実施され、加えて入国規制緩和による外国人旅行者によるインバウンドもあり、回復基調にあると考えられる。</p>
	<p>2. 量販・卸</p> <p>(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和4年11月の食品売上高は全店ベースで前年比103.7%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同102.6%、既存店ベースは同101.2%となった。また、畜産部門の売上高は約1,177.7億円で全店ベース同104.0%、既存店ベース同102.6%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、相次ぐ値上げにより、買い上げ点数は減少傾向であるが、一品単価の上昇により、売上高は確保できているとのこと。行動制限のない日常生活により、家庭内食事需要の低迷が心配されていたが、物価の高騰が長期化するなかで、節約志向として外食を控え、自宅等で食事する行動が高まっているのではないかとのこと。畜産部門においては、相場の高騰が続き、買上点数の伸び悩みは続いているが、豚肉や鶏団子など鍋物用の商材の動きがよくなったとのこと。加工肉も価格が高騰しているが、一部に回復傾向がみられたとのこと。牛肉は国産、輸入ともに動きが良くないが、豚肉は小間切れやミンチなどが好調、鶏肉は鳥インフルエンザの影響を受け調達に苦しみ伸び悩んだとのこと。</p>
	<p>3. 業務・加工筋</p> <p>(1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによると令和4年11月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比101.6%の4.8千トとなった。うち国内品は同108.3%の4.0千トと前年を上回り、輸入品については同76.2%の0.7千トと前年を下回った。</p>
在庫	<p>1. 令和4年11月</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産23.4千ト(前年比69.7%・前月差▲1.8千ト)、輸入品129.9千ト(同113.3%・同+2.4千ト)と合計で153.3千ト(同103.4%・同+0.6千ト)となった。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表(令和4年12月26日更新)では、11月の出回りは国産145.9千ト(前年比98.7%・前月差+0.7千ト)、輸入品47.4千ト(同92.3%・同▲0.3千ト)と合計で193.2千ト(同97.0%・同+0.4千ト)となった。12月以降の国産在庫については、品薄状況は続いていて、年末年始用凍結品の消化もあり、引き続き在庫は減少していくと予測する。輸入鶏肉については前述の(独)農畜産業振興機構(ALIC)予測でもあるように、12月・1月の出回りは前年同月を下回ると予測されているものの、入荷量は前年同期の在庫数量が低水準であったことでブラジル産の輸入量が多かったこと等から前年を大きく下回る見通しであり、期末在庫は12月・1月とも前年を下回ると予測する。</p>
相場	<p>1. 令和4年12月動向</p> <p>(1) 令和4年12月の月平均相場は、モモ肉773円/kg(前月差+44円)・ムネ肉417円/kg(同+21円)正肉合計で1,190円/2kgと前月を65円上回り、前年同月を209円上回った。モモ肉相場は月初755円、月末は797円となった(昨年は月初625円、月末659円で34円の上げ)。昨年の相場を大幅に上回り、5か月連続で正肉価格が1,000円を超えた。依然として相場高騰する畜産物の中では比較的安価な鶏肉に消費者の需要があり、寒さも本格化し、鍋需要もあり、モモ肉の品薄状態は続いている。ムネ肉相場は、輸入品価格も落ち着きつつあるが、加工向けの引き合いが依然強く、前月から21円の上げとなった。モモ肉の品薄状態が続く中、訴求品としてムネ肉を販売している量販店もあると聞かれる。鳥インフルエンザは、12月国内で30例発生し、供給面に影響を与えている。これらにより正肉価格は例年にない高水準で推移した。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) 1月の生産量は、前年より若干上回る計画である。しかし、鳥インフルエンザの発生が1月11日時点で今季国内23道県58例目まで報告されており、今後も拡大する恐れがあり、生産への影響が懸念される。量販店は鳥インフルエンザの影響で鶏肉の調達に苦慮していると聞かれるが、販売は順調に推移している。外食産業についても法人・夜間の需要は自粛傾向であるが、個人・昼間の需要は回復傾向である。輸入品の価格は下げ基調であるが、国産品についてはタイトな状況が続き、価格も高水準で推移するものと思われる。以上から、生鮮品及び凍結品ともに需要が高く、供給面でも引き続き不足が予想されるのでモモ肉相場は上げの月平均800円、ムネ肉相場は若干上げの月平均420円と予測する。</p> <p>(2) 年末の販売状況は、鳥インフルエンザの影響により、国産生鮮品の供給不足となり、国産品および輸入品の解凍品を販売した店舗も多かったと聞かれる。年明けも、鳥インフルエンザの発生が相次ぎ品薄状態は続いている。例年であれば成人の日を境に販売は落ち着く時期だが、順調に推移している。様々な料金や食品の値上げが相次ぐ中、他の畜種と比較すれば比較的安価な鶏肉に需要がシフトしていると考えられる。凍結品の価格は輸入品の値下げの影響も受け、若干の下げ基調であるが、品薄状況は続いており、引き合いも強い。今後も、鳥インフルエンザの影響で供給量が低下することが予測されることから、鶏肉の需給は引き続きタイトに推移していくと思われる。</p>

実績											
生産状況						単位:千羽、千ト、%					
	R4年11月推計実績		R4年12月計画		R5年1月計画		R5年2月計画				
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比			
入雛羽数	63,876	101.1%	69,965	99.9%	65,023	101.3%	60,546	101.9%			
処理羽数	61,593	97.8%	67,784	100.2%	60,768	102.0%	58,756	102.4%			
処理重量	189.4	98.2%	204.7	98.8%	182.8	101.5%	176.4	101.5%			
※参考資料: ㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」											
輸入動向											
単位:千ト、%											
品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年6月	52.2	42.8	121.9	46.2	40.5	114.2	98.4	83.3	118.1	53.0	47.0
R4年7月	45.6	44.8	101.9	43.8	43.9	99.9	89.4	88.6	100.9	51.0	49.0
R4年8月	47.4	46.9	100.9	47.8	44.1	108.5	95.2	91.0	104.6	49.8	50.2
R4年9月	46.8	45.2	103.5	44.3	31.8	139.2	91.1	77.0	118.3	51.4	48.6
R4年10月	53.9	51.2	105.3	44.1	35.2	125.4	98.1	86.4	113.5	55.0	45.0
R4年11月	49.8	57.8	86.2	43.1	43.8	98.5	92.9	101.5	91.5	53.6	46.4
※参考資料: 財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」											

鶏肉の消費動向						単位:グラム、円、%			相場(年別・暦年)				単位:円
履歴	数量			金額									
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比							
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9							
R4年6月	1,433	1,461	96.7	1,375	1,328	98.4							
R4年7月	1,439	1,440	98.1	1,345	1,265	103.5							
R4年8月	1,372	1,449	99.9	1,309	1,341	106.3							
R4年9月	1,492	1,546	94.7	1,386	1,383	97.6							
R4年10月	1,574	1,559	96.5	1,534	1,424	100.2							
R4年11月	1,495	1,536	97.3	1,505	1,429	105.3							
※参考資料: 総務省統計局HP「家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)」													
							モモ肉	ムネ肉	計				
							H26年	626	294	920			
							H27年	639	336	975			
							H28年	621	255	876			
							H29年	626	315	941			
							H30年	595	282	877			
							R元年	585	243	828			
							R2年	614	269	883			
							R3年	641	313	954			

在庫状況(推定)												単位:千ト、%		
履歴	国産			輸入品			合計							
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比					
R4年6月	30.5	34.1	89.4	119.1	121.7	97.8	149.6	155.8	96.0					
R4年7月	28.9	34.5	83.6	121.1	113.7	106.5	150.0	148.3	101.2					
R4年8月	28.5	34.9	81.7	121.2	111.4	108.8	149.7	146.3	102.3					
R4年9月	25.8	33.8	76.5	121.2	107.6	112.7	147.1	141.4	104.0					
R4年10月	25.2	34.7	72.7	127.5	108.2	117.8	152.7	142.9	106.9					
R4年11月	23.4	33.6	69.7	129.9	114.7	113.3	153.3	148.2	103.4					
※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」														

相場(月別)												単位:円、%		
品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計							
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比					
R4年8月	649	583	111.3	354	308	114.9	1,003	891	112.6					
R4年9月	667	580	115.0	364	316	115.2	1,031	896	115.1					
R4年10月	697	603	115.6	376	328	114.6	1,073	931	115.3					
R4年11月	729	619	117.8	396	333	118.9	1,125	952	118.2					
R4年12月	773	641	120.6	417	340	122.6	1,190	981	121.3					
R5年1月	(800)	649	123.3	(420)	330	127.3	(1,220)	979	124.6					
R5年2月	(790)	646	122.3	(410)	323	126.9	(1,200)	969	123.8					
※()は見直し														